

# 第 1 章 調査研究の目的・方法

## 第1章 調査研究の目的・方法

### 第1節 調査研究の目的

少子高齢化が進む中、高齢者が年齢にとらわれず、意欲と能力を活かして働くことができるための環境整備が強く求められている。

高齢者はその職務経歴、身体機能等が多様であることから、その職業能力も多様である。就業にあたっては、その多様な職業能力を的確に把握し評価した上で、各人の適正にあった就業方法、職務内容を選択することが望ましい。また、就業の可能性を高めるためには、時代にあった職業能力を付加し、今後雇用増が見込める新規・成長分野等へ誘導する必要がある。

このようなことから本調査研究の目的は、新規・成長分野をはじめとする就業が見込める分野において、高齢者に必要とされる職業能力を明らかにした上で、高齢者が培ってきた知識、経験を活かしながら、その職業能力を付加するための訓練手法及び効果的な職業訓練のあり方を示すことにある。

### 第2節 調査の方法

本調査研究は、まず、新規・成長分野等において高齢者の就業が見込める分野、職務内容に必要な職業能力を抽出し、さらに付加すべき職業能力をあきらかにするために、企業と従業員に対してアンケート調査及びヒアリング調査を行った。あわせて就業促進を図る情報収集として高齢者従業員の就業意識や企業が高齢者を採用するときに重視している条件等を調査した。

次に就業が見込まれる分野に関連する職業訓練科の、受講生と指導員に対してアンケート調査及びヒアリング調査を行い、訓練カリキュラムや高齢受講生に対する指導方法、メンタル面での対応事例について検討し、訓練のあり方、訓練手法のあり方を探った。

最後に、高齢者、企業側に対する高齢者の就業促進に向けた情報提供、相談支援のあり方について考察した。

#### 2 - 1 新規・成長分野等において就業が見込める分野、職務内容の把握

263社（8製造業、1設備工事業）の企業とその従業員773名に対してアンケート調査を行った。さらにこの調査を補強するため20社に対してヒアリング調査を行った。また、12社、16名の高齢就業者ヒアリングにより就業事例を収集した。その結果から高齢者の就業が見込める分野、職務内容や必要な職業能力を抽出し、高齢者に付加すべき職業能力を明らかにした。

## 2 - 2 高齢者に対する訓練のあり方

先に抽出した分野に関連する離転職の職業訓練科の受講生及び指導員に対して、次のアンケート及びヒアリング調査を行った。職務経歴や就業希望などの属性と訓練受講意識、実施現況等を1084名の受講者へのアンケート、19職業能力開発施設の75名の指導担当者に対してヒアリング調査の結果から有効な職業訓練を実施するための訓練形態、加齢による機能低下を配慮した指導上の留意事項などをまとめ、さらに、高齢者の就業促進に向けた情報提供のあり方について検討した。

### 第3節 調査研究のフロー

